

令和5年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>(1) 科学技術の視点を持ち合わせ、工業に係る専門性を重視し、社会で活躍する人材を育成するための教育課程を編成する。</p> <p>(2) 専門的技術を自ら学び、国際社会で活躍する人材を育成する効果的な教育システムを開発する。</p>	<p>(1) 工業に関する基礎・基本的な知識と技能の定着と、確かな学力を育成する方策の充実を図る。 社会で活躍する人材を目ざし、身につけさせたい資質・能力を育成する教育課程を編成する。</p> <p>(2) 工業技術者として持続可能な開発目標(SDGs)の視点を意識させ、SDGsの課題や目的を理解する確かな知識、確かな技術を身につけさせる。 課題研究を通じ、課題解決に向け主体的に学ぶ力を育成する教育システムを推進する。</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣と学びの基盤となる学習規律の確立を目ざし、学習活動及び教科外活動の様々な場面で全職員が協力して指導にあたる。 (1) ICTを活用し、従来と異なる視点からも基礎学力と技能の定着を図る。 (2) 工業共通科目や各種実習の特徴を生かし、段階的な課題研究への取組に結びつける。 (2) 職員間で実習と課題研究の係わりやSDGsの視点を共有し、専門基礎知識と技術の基礎力を向上させる取組を推進する。</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣及び学習規律を確立し、落ち着いた中で学習に取り組める環境づくりを推進できたか。 (1) 1人1台端末の導入やICTの利点を活かし理解や習熟度に応じた指導を充実させられたか。 (2) 工業に関する基礎的技術に関心を持たせ、技術向上を目ざし意欲的に取り組み、社会の発展を図る創造的、実践的な態度を育成できたか。 (2) 工業技術やSDGsに関する諸問題を自ら広い視野で考え、基礎的な知識と技術を活用し創意工夫する能力を育成できたか。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>(1) 社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成し、複雑化・多様化した課題を解決するためのチームとしての生徒指導体制を構築する。 1人ひとりが安全・安心で充実した学校生活が送れるよう効果的な教育相談体制を構築する。</p> <p>(2) 部活動の活性化と生徒の社会的・職業的な自立に向けての取り組みの充実を図る。</p>	<p>(1) 学年・各グループが連携し、個々の生徒の状況や変化を常に共有して、それぞれの課題の解決や将来における自己実現を目ざした粘り強い指導を行う。 問題行動の未然防止に努め、特別指導件数の減少を目ざす。 また、SCやSSWとの連携を強化し、校内全体の教育相談の意識向上を図る。</p> <p>(2) 学校行事を通して部活動の参加等を促し、生徒自身の成長を育む。</p>	<p>(1) 担任や学年を中心に生徒の支援にあたり日常から規範意識の向上を図り、講演会等を通して生徒が自ら課題を発見し解決する態度や能力を育成する。 また、巡回等で生徒を見守り、学年を跨いだ情報共有を常に行い必要な情報は全教員で共有し、生徒の特性等の的確な把握に努め個性の伸長を図る。 さらに、今年度よりSCとSSWが週1回の来校となるため、より多くのサポートを依頼する。 (2) 部活動の生徒に学校行事で役割を与える。</p>	<p>(1) 多種多様な生徒の問題行動に対して、生徒と信頼関係を構築しながら粘り強い指導・支援を行うことができたか。 生徒の日常における行動や意識が向上しているか。 SC、SSWの活用件数が増加したか。 (2) 学校行事で役割を与えて行うことができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	(1)生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進する。	(1)生徒が自らのキャリア形成を踏まえた進路指導を組織的に行う。	(1)各学年において、各種進路活動を通じて自らのキャリア形成を考えさせ、進路選択ができるようにする。	(1)各学年においてのキャリア教育の育成ができたか。 (1)就職希望者の内定率100%、進学希望の合格率90%が達成できたか。
4	地域等との協働	(1)科学技術に寄与し、社会に貢献する独創的な発想を有する生徒を地域とともに育成する環境を構築する。 (2)地域が有する教育資源を有効活用して地域を支える人材として求められる素養と実践力を身に付けることを目指した教育活動を推進する。	(1)関係機関とも連携を図り、生徒が主体的に本校の教育活動の成果を發揮し社会に貢献できる実践力を育む機会を設けることに努める。 (2)本校の教育活動や特色ある取組みに関する情報を積極的に広報し、教育機関としての信頼を高め地域等とともに確かな人材の育成に努める。	(1)各種広報・連携等の活動の有効性を吟味した上で、生徒が学習成果を發揮し社会が求める資質・能力を育成できる機会を設ける。 (2)効果的な学校広報活動の在り方を企画立案・実践し、校外関係機関の理解がより高まる情報発信環境を整える。	(1)学習成果を發揮させ想像力や実践力の育成につなげるために、学校広報や連携活動、情報発信の運営等に生徒が携わる機会が得られたか。 (2)信頼され開かれた学校づくりを目指し、効果的な学校広報や情報発信の在り方を吟味した活動を推進できたか。
5	学校管理 学校運営	(1)一人ひとりの職員が学校マネジメントの視点や能力を身に付け、各グループが主体となり、業務の省力化や、新たな分野の業務を遂行する組織体制を構築する。 (2)地震や洪水に対する地域の特性に合わせた防災体制及び安全衛生の充実を図る。生徒・職員の防災意識を高め、安全で安心な防災環境を整える。	(1)柔軟な働き方がしやすい体制を作り、各グループで業務内容の情報共有を行って業務を遂行する。 (2)地震等が起きた際の防災体制の検討や生徒への防災教育の意識向上を図る。	(1)年間を通して各グループの業務がどのように行われているかを検証し、柔軟な働き方ができるように業務の見直しを行う。 (2)地震が起きた際の避難経路の把握や生徒自身にDIGを体験させて、地震・洪水等の防災意識を高めさせる。	(1)担当者やグループ等の組織間で業務内容がどのように計画して動いているかを確認し、記録・検証を行っているか。 (2)避難訓練で避難経路を把握できたか。DIGを通して防災意識が高まり、危険箇所が理解できたか。